

# 施策評価シート （評価対象年度：平成30年度）

## 1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	3 保育教育環境の整備	② 施策番号	7101
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	3 子どもが豊かな人間関係と学ぶ喜びを育むまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	1 幼児教育の充実		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育部	教育総務課		

## 2. 施策の現状把握

### [1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	・園児 ・幼稚園施設
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	・幼稚園施設を適正に維持管理するとともに、幼稚園に生じた支障を解消することによって、良好な保育教育環境を保持する。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	子どもの持てる力を引き出し、その育ちを促す多様な遊びの環境や基本的な生活力が育つ生活環境など、幼児期にふさわしい環境が求められている。

### [2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 施設整備保全費 計算式	千円	良好な保育環境を通じて幼児教育の充実を図るための経費であるため
② 幼稚園に行くことが楽しいと感じている園児の割合 計算式	%	安全管理の対象である保育教育施設で一日を過ごす園児から得たアンケート結果であるため
③ 計算式		

指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考
① 施設整備保全費	千円	目標値	—	—	—	—	H29の増大は大型備品を購入したため
		実績値	1,782	7,061	1,067	—	
		達成率					
② 幼稚園に行くことが楽しいと感じている園児の割合	%	目標値	100	100	100	100	今回から新たに指標として設定
		実績値	97.8	98.8	96.9	—	
		達成率	97.8%	98.8%	96.9%		
③		目標値					
		実績値					
		達成率					

### [3] 施策を構成する事務事業

事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
	指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価	今後の方向性	
1 幼稚園管理事業	幼稚園に行くことが楽しいと感じている園児の割合	%	98.8	96.9	—	21,381	21,060	21,072	A	ア	◎
2 幼稚園施設保全整備事業	施設整備保全費	千円	7,061	1,067	—	9,390	3,582	4,807	A	ア	○
3											
4											
5											
6											
7											
8											
計	2					30,771	24,642	25,879			

### 3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	恒常的に良好な保育教育環境を提供することにより、幼児教育の充実、ひいては結果として豊かな人間関係と学びを育むまちづくりに寄与する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	安全、安心で快適な保育教育環境を提供し、それに対して園児がどのように感じているか。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	幼稚園施設の整備、維持管理を行う一方で、保護者へ就学前の子育て施策の一環としてワークショップやミーティングなど積極的な参加を求めている。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	幼児教育を充実させるために実施する維持管理事業と保全整備事業であるため、構成する事務事業は適正である。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	現行の2園は、平成22年度に1園を新築、1園を大規模改修したものであるため、当分の間は抜本的な老朽化対策の必要は少ない。

### 4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	幼稚園施設は、新築と大規模改修を実施しているため、老朽化対策の緊急性は低い。 ただし、求められる幼児保育教育に対応していくためには、計画的な施設の保全を検討する必要がある。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

### 5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	定住促進につながる、魅力ある幼稚園施設の検討を行う。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	国が推進する幼児保育施策を踏まえて、施設整備を検討する。
中長期的対応 (3~5年をめどに取り組む改善案)	進行する少子化を見据えて、幼稚園を含めた小中一貫教育の在り方を検討する。

### 6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	成果指標から保育教育環境の維持向上に向けた取組が適切に実施されている。 幼稚園施設について保育教育環境の適切な維持に向けた保全について計画的取組を進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある